



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月31日

上場会社名 株式会社エスクリ 上場取引所 東  
 コード番号 2196 URL http://www.escrit.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 博  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役上級執行役員管理本部管掌 (氏名) 岡崎 太輔 (TEL) 03-3539-7654  
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日 配当支払開始予定日 平成26年12月15日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	9,376	14.1	175	△53.1	139	△58.8	63	△64.0
26年3月期第2四半期	8,217	—	373	—	337	—	176	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 63百万円(△63.7%) 26年3月期第2四半期 175百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	5.41	5.32
26年3月期第2四半期	15.15	14.81

(注) 平成26年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	17,960	3,778	20.9
26年3月期	14,910	3,745	24.9

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 3,755百万円 26年3月期 3,717百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	3.00	—	5.00	8.00
27年3月期	—	5.50	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	5.50	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,348	15.4	2,407	27.7	2,268	25.1	1,355	23.1	116.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期会計期間より減価償却方法の変更を行っております。詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(1)「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	11,756,700株	26年3月期	11,670,000株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	652株	26年3月期	606株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	11,714,120株	26年3月期2Q	11,628,353株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビューは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は以下のとおり機関投資家およびアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

・平成26年10月31日(金)・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12
4. 補足情報	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融緩和をはじめとする各種政策効果が継続し、円安による輸出環境の改善なども伴ったことから、緩やかな景気回復基調となっております。一方で、消費税率の引き上げ後の個人消費には一部で慎重さが見られ、原材料価格の上昇などの影響もあり、国内景気の下押し懸念は依然として残るなど、先行きには注意が必要な環境となっております。

このような環境下、当社グループは主力事業であるブライダル事業の事業拡大に加え、グループ経営を推進する体制を強化するなど、連結業績の最大化に向けた努力を継続してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、連結売上高9,376百万円(前年同期比14.1%増)、連結営業利益175百万円(同53.1%減)、経常利益139百万円(同58.8%減)、四半期純利益63百万円(同64.0%減)となりました。

なお、比較対象としての前第2四半期連結累計期間については、期中における連結開始であったため、連結対象となる子会社の業績は、平成25年7月1日から平成25年9月30日までとなっております。

セグメント別の業績は次の通りです。

#### (ブライダル事業)

ブライダル事業においては、平成26年8月に宮城県仙台市に「ラグナヴェール SENDAI」および「アンジェリオン オ プラザ SENDAI」を開業し、東北エリアへ初の出店をいたしました。また、平成26年10月に東京都豊島区池袋に「アルマリアン TOKYO」および「アヴェニールクラス TOKYO」の開業を控えるなど、積極的な店舗展開を継続しております。ブライダル事業の業績に関しては、前期に開業した「アルマリアン FUKUOKA」が通期稼働したことや「ラグナヴェール SENDAI」と「アンジェリオン オ プラザ SENDAI」の開業に伴う売上増加などにより、売上高は6,955百万円(前年同期比6.8%増)となりました。一方で、新規施設の開業準備コストが発生していることから、セグメント利益は677百万円(同18.0%減)となりました。

#### (建築・内装事業)

建築・内装事業においては、建材の仕入価格高騰や建設現場の人材難などの要因はあったものの、大型工事の受注や利益率の高い個人住宅などの建築工事が順調に推移したことなどから、売上高は1,398百万円(前年同期比53.2%増)となり、セグメント利益は207百万円(同230.6%増)となりました。

#### (その他の事業)

その他の事業においては、平日の法人宴会サービスや、子会社におけるコンテナ事業が好調に推移したほか、レストラン事業の出店による売上拡大などにより、売上高は1,022百万円(前年同期比29.4%増)、セグメント利益は114百万円(同286.2%増)となりました。

### (2) 連結財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,050百万円増加して、17,960百万円となりました。これは主に、有形固定資産が3,366百万円増加したこと、無形固定資産が26百万円増加したこと、敷金及び保証金が455百万円増加したこと、流動資産が868百万円減少したこと等によるものであります。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ3,017百万円増加して、14,182百万円となりました。これは主に、長期借入金が2,279百万円増加したこと、前受金が696百万円増加したこと、資産除去債務が622百万円増加したこと等によるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ32百万円増加して、3,778百万円となりました。これは主に、四半期純利益を63百万円計上したこと、前事業度の期末配当58百万円を実施したこと等によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、前連結会計年度末に比べ1,063百万円減少し、2,958百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は48百万円(前年同四半期は891百万円の収入)となりました。その主な内訳は税金等調整前四半期純利益142百万円、前受金の増加額696百万円があった一方で、売上債権の増加額218百万円、仕入債務の減少額225百万円、法人税等の支払額545百万円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は3,604百万円(前年同四半期比260.3%増)となりました。その主な内訳は有形固定資産の取得による支出2,968百万円、敷金及び保証金の差入による支出507百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は2,584百万円(前年同四半期比35.2%増)となりました。その主な内訳は長期借入れによる収入3,550百万円、長期借入金の返済による支出1,063百万円があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期累計期間の業績につきましては、ブライダル事業において施行単価が若干伸び悩んだものの、建築・内装事業において店舗内装、個人住宅などにおける工事の完成が順調に推移したこと等により、売上高は平成26年5月9日公表の業績予想を上回る結果となりました。また、営業利益、経常利益および四半期純利益は、建築・内装事業の利益増加、広告宣伝費などの一般管理費が当初想定を下回ったことなどにより、平成26年10月28日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり修正を行っております。平成27年3月期通期業績予想につきましては、今期の受注活動を継続中であることから、平成26年5月9日公表の業績予想からの変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

有形固定資産の減価償却方法の変更

当社グループでは、従来、有形固定資産の減価償却方法について定率法(ただし、建物については定額法)を採用していましたが、第1四半期連結累計期間より、主要な有形固定資産の減価償却方法について定額法へ変更致しました。

この変更は、平成25年5月10日に発表した中期経営計画を達成するため、出店エリアをこれまでの首都圏、名古屋、関西の大都市圏から全国の都市部へと拡大して行くことを契機に、当社グループの有形固定資産の使用実態を見直したことによるものであります。その結果、従来より進めてきた接客に関する情報の定量的分析による施設運営や営業支援の仕組化の浸透により、従前と比して受注および施行がより安定的に推移する傾向が判明したこと、並びに現状の新規出店がお客様のニーズに基づき長期的な視点で行われるものに変化していることから、耐用年数にわたり一定額の費用が計上される定額法へ変更するものであります。

この変更により、従来の方法によった場合と比較し、減価償却費は159百万円減少し、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ159百万円多く計上されております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,209,160	3,155,255
受取手形及び売掛金	143,850	280,652
完成工事未収入金	223,761	305,405
商品及び製品	86,510	114,859
販売用不動産	371,823	412,652
原材料及び貯蔵品	51,155	61,056
未成工事支出金	242,182	98,878
その他	456,969	488,293
貸倒引当金	△3,905	△3,867
流動資産合計	5,781,508	4,913,186
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	5,479,483	7,215,651
その他	776,957	2,406,919
有形固定資産合計	6,256,440	9,622,570
無形固定資産		
のれん	249,155	219,842
その他	184,987	241,101
無形固定資産合計	434,143	460,943
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,962,355	2,417,623
その他	495,924	567,929
貸倒引当金	△20,318	△21,881
投資その他の資産合計	2,437,961	2,963,671
固定資産合計	9,128,544	13,047,185
資産合計	14,910,053	17,960,372

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,205,216	949,789
短期借入金	—	200,000
1年内返済予定の長期借入金	1,846,528	2,053,460
未払金	1,029,278	1,054,363
工事未払金	241,998	271,468
前受金	670,579	1,367,157
その他	1,691,206	881,629
流動負債合計	6,684,807	6,777,867
固定負債		
長期借入金	3,615,504	5,894,674
資産除去債務	678,998	1,301,884
その他	185,243	207,779
固定負債合計	4,479,745	7,404,337
負債合計	11,164,553	14,182,205
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	539,327	555,807
資本剰余金	497,327	513,807
利益剰余金	2,678,646	2,683,652
自己株式	△126	△187
株主資本合計	3,715,175	3,753,079
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,077	2,596
その他の包括利益累計額合計	2,077	2,596
新株予約権	28,248	22,491
純資産合計	3,745,500	3,778,166
負債純資産合計	14,910,053	17,960,372



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	8,217,034	9,376,853
売上原価	3,421,834	4,020,079
売上総利益	4,795,199	5,356,773
販売費及び一般管理費	4,421,798	5,181,499
営業利益	373,401	175,274
営業外収益		
受取賃貸料	2,754	2,004
為替差益	1,124	5,938
その他	5,903	4,910
営業外収益合計	9,782	12,852
営業外費用		
支払利息	36,085	41,303
その他	9,132	7,513
営業外費用合計	45,217	48,816
経常利益	337,966	139,310
特別利益		
新株予約権戻入益	1,260	3,142
特別利益合計	1,260	3,142
税金等調整前四半期純利益	339,226	142,452
法人税、住民税及び事業税	163,943	76,295
法人税等調整額	△911	2,804
法人税等合計	163,032	79,100
少数株主損益調整前四半期純利益	176,193	63,352
四半期純利益	176,193	63,352

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	176,193	63,352
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△259	519
その他の包括利益合計	△259	519
四半期包括利益	175,934	63,871
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	175,934	63,871

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	339,226	142,452
減価償却費	500,210	427,153
のれん償却額	14,656	29,312
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△790	1,524
受取利息及び受取配当金	△269	△1,365
支払利息	36,085	41,303
売上債権の増減額 (△は増加)	△24,925	△218,445
たな卸資産の増減額 (△は増加)	110,101	△123,853
未成工事支出金等の増減額 (△は増加)	314,705	143,304
仕入債務の増減額 (△は減少)	△124,993	△225,957
前受金の増減額 (△は減少)	380,238	696,578
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	△134,040	△163,607
未払金の増減額 (△は減少)	32,612	△77,536
その他	4,283	△135,885
小計	1,447,101	534,978
利息及び配当金の受取額	269	1,365
利息の支払額	△46,549	△38,938
法人税等の支払額	△508,984	△545,892
営業活動によるキャッシュ・フロー	891,837	△48,488
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△5,800	△22,418
定期預金の払戻による収入	1,200	13,200
有形固定資産の取得による支出	△664,618	△2,968,815
資産除去債務の履行による支出	—	△15,200
無形固定資産の取得による支出	△23,385	△127,399
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△238,043	—
敷金及び保証金の差入による支出	△66,402	△507,704
敷金及び保証金の回収による収入	615	52,435
その他	△3,939	△28,877
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,000,373	△3,604,779
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	300,000	200,000
長期借入れによる収入	2,600,000	3,550,000
長期借入金の返済による支出	△853,366	△1,063,898
配当金の支払額	△57,838	△57,838
その他	△78,098	△44,057
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,910,696	2,584,205
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	5,938
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,802,159	△1,063,124
現金及び現金同等物の期首残高	1,416,611	4,021,338
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,218,771	2,958,214

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ブライダル	建築・内装	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,514,299	912,349	7,426,649	790,385	8,217,034	—	8,217,034
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	73,400	73,400	7,257	80,658	△80,658	—
計	6,514,299	985,750	7,500,049	797,643	8,297,692	△80,658	8,217,034
セグメント利益	826,377	62,820	889,197	29,631	918,829	△545,428	373,401

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、宿泊事業および宴会事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△545,428千円には、セグメント間取引消去2,200千円、のれん償却額△14,656千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△532,972千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	ブライダル	建築・内装	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,955,917	1,398,005	8,353,922	1,022,930	9,376,853	—	9,376,853
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,784,304	1,784,304	30,947	1,815,251	△1,815,251	—
計	6,955,917	3,182,309	10,138,226	1,053,878	11,192,105	△1,815,251	9,376,853
セグメント利益	677,528	207,659	885,187	114,428	999,616	△824,341	175,274

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、宿泊事業および宴会事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△824,341千円には、セグメント間の未実現利益の調整額△76,273千円、のれん償却額△29,312千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△718,755千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(減価償却方法の変更)

P. 4 「2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項」に記載のとおり、当社グループは、第1四半期連結累計期間において、有形固定資産の減価償却方法の変更を行っております。これにより、従来の方法によった場合に比べて当第2四半期連結累計期間のセグメント利益は、「ブライダル事業」で154,884千円、「その他の事業」で3,251千円、「調整額」で1,693千円それぞれ増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

新規出店について

当社は、平成26年10月14日開催の取締役会において、平成27年秋開業予定の施設を東京港区(汐留エリア)に新規出店することを決議いたしました。

1. 店舗概要

施設名:	未定
事業所名:	汐留事業所(仮)
出店スタイル:	レストランスタイル(予定)
所在地:	東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター(41F)
店舗面積:	1,092㎡
付帯設備:	1チャペル、1~2バンケット(予定)
開業時期:	平成27年秋(予定)

2. 出店の経緯

本件出店地である汐留エリアは、東京や品川といった主要ターミナル駅へのアクセスも良く、近年総合的な再開発が進み、高級ホテルや複合施設が整備される注目のエリアです。また、本件は、JR、東京メトロ、都営地下鉄および新交通ゆりかもめの各駅から、直結もしくは徒歩1~3分に立地しており、アクセス性に大変優れており、当社の出店戦略に合致することから、出店を決定いたしました。

3. 今後の見通し

本出店が当期業績に与える影響は軽微であり、平成26年5月9日に発表いたしました平成27年3月期(平成26年4月~平成27年3月)の業績予想の修正はございません。

4. 補足情報

(1) 平成27年3月期第2四半期の個別業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

個別経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	7,397	6.6	99	△73.7	63	△81.8	27	△85.9
26年3月期第2四半期	6,937	27.8	377	324.9	346	499.6	196	535.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	2.36	2.33
26年3月期第2四半期	16.93	16.55

(注) 四半期個別財務諸表は、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(2) 平成27年3月期の個別業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	18,861	16.0	2,221	26.5	1,350	23.9	115.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無